

# ま ち の 話 題



## 日本スポーツマスターズ2007出場

8月9日、福田大象さん(三沢)が滋賀県で開催される日本スポーツマスターズ2007の水泳競技に出場することを平安市長に報告しました。水泳競技は9月15・16日に行われ、福田さんは1部(35〜39歳)の100m自由型、1000m背泳ぎ、2000m個人メドレーの3種目に出場します。中学・高校時代も全国大会に出場し、今でも仕事の合間を見て、週4回は3〜4kmの内容重視の練習をしているとのこと。若い人たちの手本となるような記録を出したいと大会への意気込みを語りました。



## 少年玉竜旗争奪剣道大会で優勝

8月9日、東野少年剣道教室(木下信哉監督)の皆さんが8月4日に行われた第42回少年玉竜旗争奪剣道大会(小学生の部)の優勝を平安市長に報告しました。訪れたのは曾我貴昭君(先鋒6年生)、山下優斗君(次鋒4年生)、佐藤祐太君(中堅4年生)、平田竜太郎君(副将6年生)、梅ヶ谷翔君(大将6年生)の5人。全国から262チームが参加したこの大会、中でも先鋒の曾我君は初戦から3回戦まで15人抜き、決勝戦も5人抜きの大活躍。また、大将の梅ヶ谷君は7月26日に日本武道館で開催された第32回全日本選抜少年剣道個人練成大会の小学生の部で準優勝しています。



## 夏休み子ども体験教室

夏休み中の子どもの対象に、小郡市文化協会が主催して、夏休み子ども体験教室が校区公民館で開催されました。「味坂校区公民館」の教室では、前後期7月31日・8月17日ともに10数人の子どもたちが、茶道を体験しました。昨年参加した子どもも多く、これは、茶杓(ちやく)やく(だ)など茶道具の名前や使い方を思い出し、早くやつてみたい!と、一人ずつ順番に釜の前にすわり、友達にお茶を点てていました。初体験の子どもたちも、緊張しながら大きなお茶碗の中で一生懸命茶筌(ちやせん)を振っていました。初めて点てたお茶をいただく時には、少し神秘的な面持ちで味わっていました。子どもたちは、ちよつびり足がいたかったです。面白くない!「またしたい!」ととても満足げな笑顔を見せていました。



## 市指定文化財油屋の修繕作業が行われました。

7月29日(日)と8月19日(日)に、松崎にある江戸時代に作られた旅籠(旅館)油屋の修繕が行われました。長い年月の間に壁や床など、かなり破損が進んでいたものを、松崎町並保存会の皆さんと広報で募集した市民ボランティアの皆さんが、専門職人の指導を受けながら、1日かけて熱心に取り組みました。また夏休みに入った子どもたちも多数参加しました。作業は、油屋の入口付近の壊れた壁の塗り替えや土間(床)の補修を行いました。最初はちゅうちよとしていた参加者も終わる頃には慣れた手つきになっていました。この後、危険箇所の修繕などを行い、秋には油屋や松崎の町並を案内する場所としてオープンする予定です。

# ま ち の 話 題



▲天幕張りは大変でした

下町区では、7月28日から29日に育成会・保護者、スポーツ振興委員会やふれあいネットワーク等が協力して、30年ぶりに「ふれあい子どもキャンプ」を行いました。

子どもたちは、日吉神社境内でテントを張ったり、スイカ割りを楽しみ、協力して作ったカレーライスを食べながら、充実した達成感を味わっているようでした。

## 30年ぶりの子どもキャンプ



▲ボランティアの指導で和太鼓を体験するトンジュ小学校の児童(左)と立石小学校の6年生と一緒に記念撮影



立石小学校(永田光子校長)は、子どもたちが地域の伝統文化や芸能を学び、豊かな人間性と多様な個性を育むことを目的に、韓国のトンジュ(東周)小学校(釜山市)と交流を始めて2年目になりました。

今年も8月6日から8日までトンジュ小学校の児童31人が、立石小学校韓国友の会(高野清隆会長)の招きで立石小学校などを訪問し、地域ボランティアの協力により音楽を通じた日本文化の体験やホームステイを行い、国際交流を深めていきました。

また、8月28日からは、同会を中心とした立石小学校の6年生らが釜山市を訪問し、お花やお茶などの日本の伝統文化と韓国の伝統文化の相互交流を通して、日韓友好や親善の意識を高める交流を行いました。

## 今年も小さな国際交流

## 黒岩稲荷神社800年式年大祭

黒岩稲荷神社は市の北西部、西島区の木立の中に鎮座し、祭神は「倉稲魂神(うがのみたまのかみ)」が祭られています。

この神社創建には次のような由緒が伝わっています。

後鳥羽天皇の御代(1183年～98年)、平家一門の「慈禅尼」という人が、一門の武運長久を京都伏見稲荷に祈願し、その分霊を受けました。

壇の浦の戦い(1185年)で敗れた後、慈禅尼が肥前の山奥や筑後の国、高良山等を転々と追討の手を逃れ、この黒岩山に移り、岩穴に隠れ朝夕の礼拝、祭祀の礼を続けたのが、この神社の始まりといわれています。

以来、郷土の人々の崇敬篤く、明和2(1765)年には、第8代久留米藩藩主有馬頼貴公が奥方の病氣平癒の返礼に参道の敷設と鳥居一基を献上され、これが南方約100メートルの旧参道に今なお現存しています。

昨今では、鎮火、商売繁盛、学業成就などの神として、遠近からの参拝者が多く、毎年2月の初午の日には例祭が行われています。

本年10月13日(土)には、西島区の氏子・信者を中心に800年式年大祭が行われます。

- ▶ 期日 10月13日(土)
- ▶ 場所 黒岩稲荷神社(三沢)
- ▶ 内容 御祭典(午前10時～)、奉納演芸(正午～午後5時)  
神楽、祝舞や七夕太鼓の披露、餅まきなどが予定されています。

